

# 5年3組 国語科学習指導案

平成 30 年 10 月 23 日 (火) 13:05~  
 場 所：5年3組教室  
 授業者：住 直子

- (1) **ねらい** 読み手を納得させる意見文を書くために、資料の読み取りや、資料から考えられることが適切であるか検討する活動を通して、「資料から考えられること」の下書きを書くことができる。
- (2) **評価規準** 自分の意見の裏付けとなる資料を選び、資料から読み取れることについて考えをまとめている。【書くこと】
- (3) **評価方法** ワークシートの記述、グループ交流の発言、評価カードで見届ける。

## 1 単元名 教材名

説明のしかたの工夫を見つけ、話し合おう  
 『天気を予想する』【読むこと】  
 理由づけを明確にして説明しよう  
 『グラフや表を用いて書こう』【書くこと】

## 2 指導の立場

### (1) 教材観

『天気を予想する』では、筆者の主張を読み取りながら、筆者が主張の説得力を高めるために、どんな説明の工夫をしているのかを考えていく。筆者の文章構成や資料引用の工夫を考えることで、効果的な説明のしかたを身に付けることをねらいとしている。

『グラフや表を用いて書こう』は、「書くこと」のE「引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと」を受け、『天気を予想する』で学習した説明のしかたの工夫を適切に活用し、「社会のくらしやすさ」について意見文を書く学習である。「立場・その理由」「理由を裏付ける資料の提示・資料から読み取れることと資料から考えられること」「意見の再提示」の三段落の構成で、目的や意図に応じて収集した資料を用い、説得力のある理由や根拠を伴って記述する力を身に付けることをねらいとしている。

### (2) 児童観

### (3) 指導観

本単元では、意欲的に言語活動に取り組めるよう、相手意識、目的意識、方法意識を「多くの人」に「これからの社会について小学生がどう考えているかを伝えるために」「新聞に意見文を投稿する」と設定した。説得力のある意見文にするため、教材文から筆者の説明の工夫を読み取る活動と並行して、統計資料を用いて自分の意見文を書く言語活動を仕組む。単元の導入から出口の姿を意識できるよう、「説明のしかたの工夫について話し合い、『なるほど！なっとく！意見文』を書こう」という単元を貫く課題を設定する。読み手に「なるほど！なっとく！」と言わせるような説得力のある意見文を書くために、グラフや表を引用することや、接続語の使い方、論の進め方を習得するという目的意識がもてるようにする。

## 3 本時の展開 (8/12)

	学習内容および学習活動	指導・援助 (★高め合うための指導・援助)									
つかむ	<b>1 前時の学習を振り返る。</b> ・「天気を予想する」の筆者の説明の工夫を確認する。 <b>2 例文の比較により本時の学習内容をつかむ。</b> ・教科書の例文と資料から考えられることが適切でない例文を提示し、比較する。 <b>3 本時の課題を確認する。</b> 「なるほど！なっとく！」意見文を書くために、資料が本当に自分の意見の裏付けになっているか確かめ、「資料から考えられること」の文章を書こう。	<3つの見届ける一裏側を見届ける> ・【立場】【理由】に基づいて、自分なりに統計資料を選び、数値や注目する言葉について【読み取り】ができているかノートで見届ける。 ・意見文の構成を確認し、本時の見通しがもてるようにする。 「はじめ自分の立場→意見」「中」考えを裏付ける資料→そこから考えたこと「終わりまとめ→意見の再提示」 ★自分の意見と統計資料が合っていない場合を提示し、資料は自分の考えを裏付けるものである必要性に気付かせ、課題意識がもてるようにする。									
	<b>4 選んだ資料の読み取りから考えられることを赤色の付箋に書く。</b> 【立場】社会はくらしやすい方向に向かっている。【理由】携帯電話ですぐに連絡がとれるし、情報が得られるから【資料】情報通信のグラフ【読み取り】「注目する言葉」→電話契約数	・「この資料から、～(考えられること)と言えるから〇〇だ。(意見)」と自分の立場から、資料をどのように解釈したのかを書くことが説得力を増すことになることをおさえ、グループ交流の足場となるようにする。 <3つの見届ける一学習状況を見届ける> ・机間指導で、「考えられること」が付箋に書けているかどうか見届ける。スマイルカードを見て、困っている児童に支援をしていく。 ★「選んだ資料が、本当に意見の効果的な説明となっているか。読み取りや考えられることは適切か。」を視点とし、話し手は【立場】【理由】【資料】【読み取り】【考えられること】の順で話すことを確認する。「交流のコツ」を参考に、聞き手は必ず「問い返しや確認をしながら、資料や「考えられること」が納得できるものであるかを考えるように指導する。									
深める	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>一目で分かること (黄色)</th> <th>具体的数値 (青色)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>携帯電話</td> <td>だんだん増えている。</td> <td>2000年から2016年までの約15年間で、約1億件増えている。(約2.5倍)</td> </tr> <tr> <td>固定電話</td> <td>だんだん減っている。</td> <td>2000年から2016年までの約15年間で、約660万件減っている。(約0.8倍)</td> </tr> </tbody> </table> 【考えられること】(赤色) 携帯電話の良さは・固定電話と違い、個人で持てる。いつでもどこでも連絡をとったり、情報を得たりすることができる。→仕事をする人やお年寄りにとって便利 <b>5 資料の読み取りや資料から考えられることが自分の意見の裏付けになっているかをグループで交流する。</b> (話し手) 「私は、くらしやすい方向に向かっていると思います。理由は、～からです。〇〇のグラフを見てください。これを見ると、～が分かります。この事から、～ということが言えると思います。だから、これからは、くらしやすくなっていくと思います。この資料は、私の意見の裏付けになっていますか？」 (聞き手) 「それは〇〇ということかな？(確認) ～が変化していることがよく分かるので、考えに合っていると思うよ。」このグラフのここを見ると、～も分かるね。そのことも加えるのはどうかな？(提案)」 <b>6 資料から考えられることの下書きを書く。</b> ・交流でのアドバイスを生かしながら、資料から考えられることのある文章を短冊に書く。		一目で分かること (黄色)	具体的数値 (青色)	携帯電話	だんだん増えている。	2000年から2016年までの約15年間で、約1億件増えている。(約2.5倍)	固定電話	だんだん減っている。	2000年から2016年までの約15年間で、約660万件減っている。(約0.8倍)	・記述の書きぶりを全体で確認する。 ・考えられること＝「～と思います。」の文末表現にするよう指導する。 ・スマイルカードを見ながら、困っている児童に支援をしていく。 ★交流からとり入れたことは、赤ペンで書き込むように指示する。 ★書き終わった児童からペアになり、「高め合いコーナー」で交流して、書きぶりや内容の確かめをする。
		一目で分かること (黄色)	具体的数値 (青色)								
携帯電話	だんだん増えている。	2000年から2016年までの約15年間で、約1億件増えている。(約2.5倍)									
固定電話	だんだん減っている。	2000年から2016年までの約15年間で、約660万件減っている。(約0.8倍)									
<b>7 全体交流をする。</b> ・説明が「なるほど！なっとく！」と言えるよう話し合う。 <b>8 振り返りをする。</b> 仲間との関わり (変化) ○〇さんが、「年齢別の使用人数に注目して、10代や20代の若者たちの利用が多いことを理由にすると「向かっている」の裏付けになっているとアドバイスをくれたので、書き加えたら、分かりやすくなったな。」	・交流によって、考えが深まったと言う児童のメモをとりあげ、資料を大型画面に映しながら説明し、資料から考えられることが適切かどうか、良い点はどこかを話し合う。 <3つの見届ける一定着状況を見届ける> ・グループ交流で、「なるほど！なっとく！」シールがもらえているかで、説得力のある文章が書けているか確認する。 ★評価カードに【確信・変化・発見】の項目で分かったことを記述するようにし、交流のしかたのよさを価値づける。										
生かす											

## 4 研究内容との関わり

### 【研究内容Ⅰ】

#### ②導入・課題化の工夫

導入で資料が意見と合っていないか、強引に自分の意見に結び付けていたりするような例文と、教科書の例文を比較する。それによって、多くの読み手を納得させるには、考えを裏付ける根拠が必要であることを実感できるようにする。

### 【研究内容Ⅱ】

#### ①関わりへの必然性を生むための工夫

「読むこと」で統計資料を使って意見の根拠を示すという説明の工夫を学び、自らも根拠となりそうな資料を、新聞、データブック等から選んできている。資料は、読み手に意見を分かりやすく伝え、解釈が適切なものでなければ意見を裏付けることはできない。そこで、「選んだ資料が、本当に意見の効果的な説明となっているか。読み取りや考えられることは適切か。」を視点としてグループ交流を行う。交流により、資料が効果的か、「考えられること」が適切かを確かめることができ、意見文の説得力を増すことができると考える。

#### ②関わり方の指導

資料を効果的に示せるよう、話し手は、iPadを使って1～2つの資料を提示し、読み取ったことや考えたことを説明する。聞き手は説明を聞き、資料と説明が合っているか、分からないことはないか、複数の資料の場合は、どちらがより納得できるかを答えるようにする。問い返しや確認をしながら、話し合いが深まるよう交流の仕方(「交流のコツ」)として指導し、提示しておく。聞き手の問い返しや確認こそが考えを深めることを意識できるようにして話し合いが活発になるように指導する。「なるほど！なっとく！」と思ったら、シートにシールを貼ることで、達成度が一目で分かるようにする。

#### ③活動形態の工夫

互いの資料の検討や意見交流の時間が十分とれるよう、3人を1グループとする。意見文を初めて読む人にも資料の内容や考えが伝わることを大切にすため、違う資料の3人をグループに組む。また、学習の定着状況を加味して意図的なグループに組む。記述の場面では、書き終わった児童からペアになり、「高め合いコーナー」で交流して、書きぶりや内容の確かめをする。

### 【研究内容Ⅲ】

#### ①評価の工夫 (自己評価力の育成)

評価カードを使用し、自分の姿を毎時間自覚できるようにする。カードには、意欲、課題が達成できたか、仲間との関わりなどで自分がどのように変化したか(確信・変化・発見)を振り返ることができるようにする。